



天主閣だより

マキキ聖城キリスト教会

第334号

そんな人々に対して、怨みでは無くて こんなにも優しく祈ったこの方、人間ではなく神様なのかも？と、それまではイエス様のことをカトリック教会に飾られた銅像くらいでしか知らなかった私が、驚きと興味を持った瞬間でした。

よく分からないまま日曜日ごとに教会に連れて行ってもらっていたら、ある日 伝道牧師の福沢先生を通して、神様が当時の私にまさにピッタリの言葉を教えてくださいました。あの時は愕然としました。聖書の中にこんなにも愛に溢れたイエス様の言葉があったから！

『すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。

わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。

わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。』

(マタイの福音書11章28～30節)

えっ、イエス様のもとに行けば休ませてくれて楽になれるんですか？それなら私も一緒に生きていきたい！って真剣にお願いしました。

そう、30年前のあの日あの時に私は重いくびきや大荷物をドサッと投げ出して、イエス様からの負いやすいくびきと軽い荷を背負いながら前を向いてニコニコ笑顔で生きていこう！と決心したんです。

ではまた、神様にお喋りしに来ますね。まだまだ未熟で自分自身が情けなくなる時もありますが、神様、これからもどうぞ宜しくお願いします！

今後の予定

★ 新春 スペシャルゴスペルコンサート&メッセージ

1月28日 日曜日 午後2時開場 午後2時半開演

東京ホライズンチャペル 平野耕一牧師

ゴスペル プレイズ クワイヤー の皆さん

マウイ慰問に行かれる前に、オアフ島に立ち寄ってくださいます。



「新年明けましておめでとうございます。」

マキキ聖城キリスト教会 藤浪義孝牧師

新年を迎えるにあたって、京の「いろはかるた」の中で歌われた「時かぬ種は生えぬ」ということわざを思いました。種を蒔かなければ花も実もなるはずなどなく、収穫があるはずもないとのことから、何事にもそれなりの努力が必要であることを教えています。本当に自分を成長させようと思うなら、人のせいにせず、自分を吟味し、自分に問題を見つけることの大事さを思わされます。

スコット・ソールズの著書「美しい人は偶然の産物ではない」（意識）に感銘を受けました。偉人と呼ばれた人たちの苦悩が綴られている書物です。気付かされたことは、偉人たちが苦悩にもかかわらずではなく、苦悩があったからこそ、自分を最大限に活かし、人々の心に慰めと励ましを与えることに繋がったということです。偉大な詩人ウィリアム・カウパーは、苦悩の中で希望に満ちた讚美歌を書き上げました。カウパーの作品の一つ「暗闇から輝く光」は讚美歌となり、人々にインスピレーションを与えました。偉大な画家フィンセント・ファン・ゴッホの「ジャガイモを食べる人々」は、最もよく知られている作品です。ゴッホが、苦境の中で自殺を熟考しながらも、貧しい農民の生活を描いた壮大な絵画は、多くの人を慰めました。大作曲家ベートーヴェンは難聴に苦しみ晩年はほとんど聞こえなくなりました。「説教のプリンス」と呼ばれた偉大な説教家チャールズ・スポルジョンは、深く落ち込んでいるときに優れた説教しました。スポルジョンの影響を受けた数々の偉人たちがいます。現在もスポルジョンの著書は人々の徳を高めています。

「奴隷解放の父」と呼ばれた第16代アメリカ大統領アブラハム・リンカーンや、「決して、決して、決して、諦めるな！」と国民を励ましたイギリス軍人ウィンストン・チャーチル、非暴力差別活動を行ったマーティン・ルーサー・キング・ジュニアは、酷い憂鬱と闘いました。

作家C.S.ルイスは、結婚からわずか4年後に愛妻を癌で失いました。悲しみや喪失感との戦いの中で20世紀最も影響力のある著者となりました。

不正に投獄され、白人至上主義者の殴打や殺害予告に耐えたジョン・パーキンス、

(次ページに続く)

今月の証し

「神様へのお喋り」

ブレット悦子

ホロコーストを生き延びたエリー・ヴィーゼルやコリー・テン・ブーム、悲劇的な事故で歩行能力を失ったジョニー・エリクソン・タダなど、偉人と呼ばれる人たちは、人や物事のせいにはせず、自分に対して原因を問いただしました。

どの人もみな、敗北、苦しみ、葛藤、喪失を体験しました。彼らの人生で共通しているところは、どの人も神を心の拠りどころにしたことです。それゆえに、苦悩に遭いながらも、感謝と感受性を持ち、人生を理解し、思いやりと優しさ、そして深い愛と心配りで満たされていました。偉人は、ただ偶然の産物ではないということをおぼろげに思い出させてくれます。

予期せぬことが自分の身に起きると、ついつい誰か、もしくは何かのせいになってしまう私たちは、苦悩も人格を磨くための益になると日頃から意識することは助けになります。それには勇気が必要です。

「この律法の書をあなたの口から離すことなく、昼も夜も口ずさみ、そこに書かれていることをすべて忠実に守りなさい。そうすれば、あなたは、その行く先々で栄え、成功する。わたしはあなたに命じたのではない。強くあれ。雄々しくあれ。恐れてはならない。おののいてはならない。あなたの神、【主】が、あなたの行く所どこにでも、あなたとともにあるからである。」（ヨシュア記1章8-9節）

これは、神が、恐れと不安と闘っているヨシュアという人に仰せられたことばです。「強く。雄々しくあれ！」先に述べた偉人たちも、この聖書のことばによって勇気づけられました。私たちは皆、将来に立ち向かう勇気が必要です。勇気とは、テレビに出てくるスーパーヒーローのようなものではありません。勇気とは、神の助けと導きによって人生の苦難に立ち向かうことです。大きな試練に直面しても、たとえあなたがたった一人であっても、物事に動じないために、神は、私たちがこの世で生きるために与えてくださった指示（聖書のことば）に従うように呼びかけておられます。神に信頼した歴代の偉人たちは、恐れや苦難に倒れましたが、再び立ち上がりました。苦悩があったからこそ、彼らは神への信頼と従順の大事さを学び、それを実行に移したのです。その結果、豊かな実を結びました。

あなたと共にいると約束してくださった主である神は、聖書を通して、今のあなたに語りかけてくださいます。ほんの少しの先のことであっても、誰にも予測することはできません。しかし、神は注意喚起して下さるありがたいお方です。

新年もあなたとともにおられ主なる神が豊かな恵みを注いでくださいますように。

神様、新年明けましておめでとうございます！今日は私の昔話を聞いて欲しくって、お邪魔します。それにしても、こんな自分勝手に、落ち込みやすい私と今日まで30年間も一緒に歩んでくださり守ってくださり、本当に辛抱強い神様に心から感謝・感激しています。ずっと何もお返しが出来ずに毎日の生活で精一杯な私に、これまで数えきれない程たくさんの恵みと愛をくださいましたね。

また、時には驚くような奇跡も私に見せてくださって、ありがとうございます！今年からこんな私でもマキキ教会のために少しでもお役に立つことができたら、って真摯に思っていますから、神様、どうぞ力を貸してくださいね！思い返せば、神様に会う前の私は生きている事すら苦しくて、この先どうしたらいいのかと暗くて辛い日々を長いこと送っていたんですよね。その上、自分で一方的に私は何も悪いことをしていない被害者なんだと思い込んでいて。初めて出席したサンディエゴ日系キリスト教会で、大川牧師が「あなたを含むすべての人は罪人です」とメッセージされたのを聞いた時、心の中で反発と戸惑いが起こったこと、今思い出すと恥ずかしいです。

でも、その日に新約聖書をいただき、家に帰って生まれて初めてパラパラと読んだら、イエス様が十字架の上で死刑になる直前、イエス様を殺せと騒ぐ人々に対して祈ってあげている姿にショックを受けた私でした。

『父よ。彼らをお赦してください。彼らは何をしているのか、自分でわからないのです。』（ルカの福音書23章34節）

最初は大喜びしたくせに手のひらを返して、イエス様を十字架につけた群衆たち。

